

第10回高梁市文学選奨

第10回高梁市文学選奨は、一般・高校・大学生の部に6部門47点、小・中学生の部に3部門101点の応募作品がありました。審査の結果、入選9点と佳作23点の入賞者が決まりました。入賞作品は、本年度中に発刊する小冊子「高梁の文学」に掲載し、童謡作詞部門の入選作品には曲を付けて、来年の童謡まつりで発表する予定です。

■問い合わせ 社会教育課文化係 ☎21・1516

◆入選・作品名

【一般・高校・大学生の部】

▽小説・随筆等

「ツバメ」

金子由美さん(25)

(成羽町成羽)

▽俳句

「四季」

川野輝男さん(87)

(中井町津々)

【小・中学生の部】

▽短歌

「夏」

遠藤優花さん

(高梁北中2年)

◆佳作(敬称略)

【一般・高校・大学生の部】

▽小説・随筆等：仲田澤子(高)

倉町田井▽詩：山川眞智子(川)

面町)▽短歌：1席・梶谷文江

(石火矢町)、2席・平川麗子

(成羽町小泉)▽俳句：長谷川祐

子(成羽町下原)▽川柳：角瀬君

子(中井町西方)▽童謡作詞：山

川眞智子(川面町)

▽俳句

「ぼくの夏」

平井悠真君

(富家小5年)

▽詩

「夏のかげら」

橋本大樹さん(26)

(川上町三沢)

▽川柳

「結婚」

妹尾昌美さん(79)

(東町)

▽俳句

「花火」

近久武蔵君

(成羽小5年)

▽短歌

「野良の戯言」

川上幸子さん(78)

(成羽町長地)

▽童謡作詞

「ありがたうソウさん」

秋山智子さん(54)

(成羽町下原)

▽川柳

「花火」

近久武蔵君

(成羽小5年)



【小・中学生の部】
▽短歌：1席・小林拓哉(富家小)、2席・三村莉穂(津川小)、3席・泉ひかる(富家小)▽俳句：1席・泉ひかる(富家小)、2席・古村瑠夏(富家小)、3席・井上銀河(富家小)、4席・原田紘輝(富家小)、5席・上田光晟(高梁北中)、6席・村上智哉(高梁北中)、7席・岡崎伸太郎(富家小)、8席・鈴木夏果(高梁北中)、9席・杉田唯人(富家小)、10席・芳賀智哉(富家小)、11席・笹治智弘(高梁北中)、12席・富田清真(高梁北中)▽川柳：新田希沙良(富家小)

山川ボランティア顕彰

地域社会福祉、保健環境衛生などの厚生分野のボランティア活動に取り組む個人を顕彰する「山川ボランティア顕彰」の受賞者が決定し、10月11日に高梁総合文化会館で開催された「高梁市健康福祉のつどい」で表彰式が行われました。

同顕彰は、元備北信用金庫理事長・故山川昭さんのご遺族の寄付をもとに基金を設置し、平成13年度から行っています。

■問い合わせ 福祉課高齢福祉係 ☎21-0265



さくらひろし 佐倉 祐一さん (81歳) (川上町高山)



つちやりんこ 土谷 林子さん (77歳) (成羽町下原)



もりしたけん 森下 謙さん (73歳) (落合町近似)



まえはらみちえ 前原 美智恵さん (72歳) (本町)



ふくださだじ 福田 定治さん (83歳) (津川町八川)



なかもりいさむ 中森 勇さん (80歳) (高倉町飯部)



うえむらひとし 上村 齊さん (70歳) (巨瀬町)



平成14年に発掘された「赤羽根イナリ古墳」

せりね

九十七 落合町阿部 赤羽根

「赤羽根」は、井谷川に沿った阿部山(三二六)の山塊が南に向かって突き出したところの山すそに当たる南向きの斜面で、阿部の平野や成羽川を見下ろす位置にあります。

現在「赤羽根」に、たいようの丘ホスピタルなどの施設が建っていますが、昔は大変寂しい静かな場所でした。旧成羽往來が、北の原田、松原方面と別れる場所で、その分岐点に観音堂が建っていて、唯一の「休み堂」でした。



「赤羽根」の全景

今でもそこには、文政時代(二八一八〜一八三〇)に江戸大相撲の力士だった、金剛力熊ヶ嶽の墓碑や、延命地藏の石仏が昔を偲ばせてくれています。金剛力熊ヶ嶽の碑には、「八田部山門弟熊ヶ嶽木曾右衛門」と左側に書かれ、右に文政七甲申(二八二四)歳閏八月三日卒年三十五」とあって、江戸大相撲の星取表にも出ていた力士で、三十五の若さで亡くなっています。

その横には、延命地藏の立派な石仏が立っています。「天明二壬寅(二七八二)三月日 乳子観音札所道井谷念仏講」と書かれ、当時は飢饉などがあって不景気な時代で、阿部深山の「観音信仰」の霊場が人々を集めていたのでしょう。信者の道案内を兼ねた地藏石仏なのです。

このほか、付近には天正六年(二五七八)播州上月城の戦いで毛利に降伏して、松山城へ護送される途中に阿井の渡しで暗殺された尼子の武将山中鹿助幸盛の胴墓や、鹿介の位牌を祀っている曹洞宗観泉寺があります。

「赤羽根」一帯斜面には、多くの古墳が発見されていて、古代の墳墓地帯になっています。現在、倉敷考古館に保存されている箱式石棺や勾玉などは、この付近から出土したものです。

昭和五十五年七月に六号墳、七号墳、八号墳が発掘され、いずれも墳の側石や天井石を赤土の粘土で目張りをしていて、棺の中には川原石を敷き詰め、石枕をして寝かされた人骨(神展葬)や鉄剣が出土しています。人骨の首から上には赤色顔料(ベンガラ)の朱が塗られ、いずれも保存状態が良いもので、赤褐色の粘土層に埋葬され、密封されていたためだろうといわれ、どの墳墓も五世紀初めから六世紀頃の群集墳として話題になりました。

最近では平成十四年(二〇〇二)に、宅地造成中に発見され、発掘調査された「赤羽根イナリ古墳」(市指定文化財)があります。これは直径十四メートルの円墳で、墳丘には周りに石列が発見され、「葺石」をめぐらした、その円の中に五基の箱式石棺が見つ

かり、このうちの二基の棺からも人骨が出土しました。このような円墳の墳丘の中に五棺が埋葬されたものは、大変珍しいといわれ、しかも時代が五世紀初めから六世紀の古墳で、大変古い時代のものであります。このように「赤羽根」に見られる赤褐色で粘土質の土壌(保水性が大きく、湿ると強い粘性がある土)は、当時墳墓として人骨を保存するには、最も適した好条件の場所だったのでしよう。

「赤羽根」という地名は、赤褐色で粘土質の土壌を意味する「埴」から転じた地名で、「赤埴」とか「赤羽」、「赤羽根」と同じ意味の地名で、珍しい自然地名なのです。

(文・松前俊洋さん)